

# 彙報

○平成二十五年度講義題目

〈大学院〉

日本文学研究の方法(1)(2)

塩村教授・阿部教授

西鶴研究(1)(2)

大井田准教授

古代和歌の諸問題(1)(2)

塩村教授

明治期の文学作品と出版

大井田准教授

中世の和歌と連歌

甘露純規講師(非)

日本漢文学の諸問題

伊藤伸江講師(非)

徒然草研究(1)(2)

堀川貴司講師(非)

中世人の連想の世界(1)(2)

塩村教授

源氏物語演習(1)(2)

塩村教授

王朝文学演習(1)(2)

大井田准教授

日本書誌学研究(1)(2)

大井田准教授

日本語史の研究

塩村教授

万葉集を読む

釘貫教授

本居宣長『玉あられ』研究

釘貫教授

『天草版平家物語』研究

金准教授

日本語研究上の諸問題A・B

釘貫教授・齋藤教授

日本語学概論A・B

金准教授

条件表現の史的展開

矢島正浩講師(非)

方言からみる日本語文法

日高水穂講師(非)

日本語文法研究の諸問題A・B

金准教授

日本精神史

阿部教授

宗教テクスト学講義

阿部教授

儀礼とテクスト・フィールドワーク演習

阿部教授

—善徳寺虫干法会

阿部教授

儀礼とテクスト・フィールドワーク演習

阿部教授

—花祭

阿部教授

太子伝研究—太子絵伝絵解き実習

阿部教授

太子伝研究—太子伝を読む

阿部教授

日本思想史演習

阿部教授

宗教テクスト学実習—大須文庫調査研究

阿部教授

日本中世文化研究

阿部教授

日本語文化入門(1)(2)

齋藤教授

日本語文化の諸問題(1)(2)

齋藤教授

翻訳表現の研究(1)(2)

齋藤教授

文学とスポーツ

日比准教授

戦争と文学(1)(2)

坪井教授

条件表現の史的展開

矢島正浩講師(非)

戦後日本の思想(1)(2)

坪井教授

方言からみる日本語文法

日高水穂講師(非)

空間表象と文学(1)(2)

日比准教授

万葉集を読む

釘貫教授

カクストロフィと表象/文学

川口隆行講師(非)

本居宣長『玉あられ』研究

釘貫教授

近代と近代批判の諸相(1)(2)

坪井教授・齋藤教授

『天草版平家物語』研究

金准教授

文化理論研究(1)(2)

日比准教授

日本語文法研究の諸問題A・B

金准教授

文化理論研究(1)(2)

坪井教授

日本語研究上の諸問題A・B

釘貫教授・齋藤教授

テクスト布置解釈学原論

釘貫教授他

日本精神史

金准教授

テクスト布置解釈学各論II

釘貫教授他

儀礼とテクスト・フィールドワーク演習

阿部教授

―「善徳寺虫干法会」を聴聞する

阿部教授

〈学部〉

日本書誌学研究(1)(2)

塩村教授

儀礼とテクスト・フィールドワーク演習

阿部教授

西鶴研究(1)(2)

塩村教授

―「花祭」に参加する

阿部教授

古代和歌の諸問題(1)(2)

大井田准教授

太子伝を解く―絵解き実習

阿部教授

明治期の文学作品と出版

甘露純規講師(非)

太子伝を読む―「正法輪蔵」研究

阿部教授

中世の和歌と連歌

伊藤伸江講師(非)

阿部教授

日本漢文学の諸問題

堀川貴司講師(非)

阿部教授

徒然草研究(1)(2)

塩村教授

日本文化入門

阿部教授

中世人の連想の世界(1)(2)

塩村教授

日本語文化入門I・II

齋藤教授

源氏物語演習(1)(2)

大井田准教授

文学とスポーツ

日比准教授

日本語史の研究

釘貫教授

戦争と文学(1)(2)

坪井教授

日本語学概論A・B

金准教授

現代の私小説

日比准教授

○平成二十五年春大会

日時 七月十三日(土) 午後二時～五時

場所 名古屋大学文学部二三七講義室

シンポジウム「文献から見た日本語の歴史」

パネリスト

村井 宏栄(梶山女学園大学講師)

『三帖和讃』の小字仮名

—中世仏教者による漢字片仮名交じり文テキ

ストとして—

中澤 信幸(山形大学准教授)

「俗音」考」

山本 真吾(白百合女子大学教授)

「院政鎌倉時代語研究における示準文献をめぐる諸問題」

司会・コーディネーター

釘貫 亨

総会

懇親会 午後六時～八時 グランピアット山手通店

○平成二十四年度卒業論文

鶉の橋の歌語表現史研究

伊藤陽平

異類物の御伽草子研究—鼠をめぐる

本間晶絵

謡曲「鉄輪」研究—鬼への変化を中心に

相川広奈

村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』論 伊藤大悟

『源氏物語』における青海波

北村実里

『みだれ髪』と新しい女

柴田光香

『徒然草』と天皇

清水紗代

『源氏物語』における玉鬘論—橘の実を中心に

菅原果歩

『日本霊異記』上巻第三における雷について

田仲加奈

三木卓『砲撃のあとで』論

玉城雄也

形容詞の変化から考察する『とりかへばや物語』

時田美里

現代語の「カモシレナイ」と「カモワカラナイ」について

高橋 翠

現代語「なんか」と「なにか」について

出嶋美紗

一般動詞に付く助動詞「ます」の命令形について

名和佳志乃

「失う」に意志性・制御性を持たせた使い方について

濱田紗月

「ありうる」「ありえる」を中心に見る複合動詞の後

項「うる」について

禁止表現における「な」について

森下景子

副詞「つやつや」の打消を伴う用法を中心とした語誌

守屋好香

『雲隠六帖』の研究

張 培  
張本英惠

○平成二十四年度修士論文

『枕草子』における女房と女童の役割 農 思航

感動詞の統語変化と機能変化について―古代語「いな」

と現代語「いや」を例に― 櫻井 豪

中国語における日系外来語について 潘 港

匿名手書きの日本語資料としてのコミュニケーション

ノート 藤嶋裕紀

「疲労」を表す語「くたばる」に関する研究

彭 梓文

○平成二十五年度秋季大会

日時 十二月十四日(土)午後二時～五時

場所 名古屋大学文学部二三七講義室

内容 「都賀庭鐘の読書筆記『過自抄』に見える漢

籍について」 劉 菲菲

大陸仏教文学の受容と訓読の研究 松尾讓兒

現代日本語助詞「は」と「が」の選択に関する研究

―名詞句指示の様相と名詞句の性質からの一考察―

長澤理恵

明治期和訳聖書の日本語史的研究 加藤早苗

現代語タケの諸用法―用法分化の条件と連続性―

「村上春樹のユートピア表象

―異世界での旅に着目して― 王 静

懇親会 午後六時～ グランピアット山手通店

○本誌への投稿をお待ちしています。投稿規定は次の通りです。

\*投稿資格

本学会員

\*枚数

出来上がり原稿にて一四頁(縦書きは

二十五字×二十二行×二段組/頁、横

書きは三十七字×三十行/頁)以内を

厳守。但、審査の過程で加筆の必要が

生じ、結果として掲載時に一四頁を超

過する場合もある。

\*原則としてメール添付による入稿とする。ただし、

メール添付に不都合がある場合、フロッピーディス

ク等の電子媒体による入稿も可とする。

手書き原稿の場合は事務局に相談すること。

\*原稿の採否は編集委員の採否を経て運営委員会が決定する。

\*原稿の採否の問い合わせには応じない。

\*投稿原稿は返却しない。

\*投稿の際、原本一部、コピー二部、計三部それぞれ

に要旨(二百字程度)を添えて提出のこと。

(入稿規定)

一、データはワード文書もしくはテキストファイル形式を原則とする。

二、論文と要旨は別ファイルとすること。

三、入稿に際しては、メール添付の論文ファイル・要旨ファイルのほか、必ずプリントアウトした原稿を三部提出すること。特殊文字・罫線等や割付けは、この原稿にしたがって版を組む。

四、採用の場合、校正編集補助費として、原稿一本につき五千円徴収する。

五、審査はプリントアウトした完成原稿によって行う。付記、次号(一〇七号)の締切は二〇一四年五月八日です。

メール送付先 machiko@lit.nagoya-u.ac.jp

○編集委員(五十音順)

阿部泰郎・大井田晴彦・金 銀珠・釘貫 亨・齋藤文  
俊・榊原千鶴・塩村 耕・坪井秀人・日比嘉高・宮地  
朝子

○本号の刊行に際しての実務担当委員は次の方々です。

久野朋美・寺尾香里・眞野道子・森 翔大・川辺瑞絵